

平成4年度の番組づくり、その他から

(財)民間放送教育協会

プロデューサー 井 出 定 利

北海道地区

'92.10月9日(金)北大構内にて「北海道大学放送講座10周年記念シンポジウム」が開催された。定着と次への発展のための一石であり、関係者のみなさまのご努力に感謝する次第です。

東京地区

ラジオ「人間、その生と死」のコメンテーターの登用が大変よかったと思われます。45分のうち、後半の15分ぐらいを講師とコメンテーターの質疑応答にあて、内容をより深めるものとなった。新しい形式の提示であり成功例と言えよう。

北陸地区

ラジオは金沢大学の開放講座を録音し、それに手を加えて放送するという試みをした。実験手法としては面白いが、完成度には問題も残した。

新潟地区

今年度はテレビでは生物と環境のテーマが多かった(他に信州大学、広島大学など)。生命現象を扱う場合、その撮影と準備には大変時間がかかる。この地区では講義の内容にあわせるのではなく、撮れた内容を先行して番組づくりをしたという。努力の結果があらわれた作品となった。

長野地区

この地区も生態系のテーマ(テレビ)であった。しかし立ちあがりが遅れて、撮影が間に合わなかったものもあったとのこと。大学と局との協力関係が、前記新潟地区との比較において問われるところであるが、大学への要望事項をひとつ記させていただきたい。放送講座を推進して行く受け皿となる組織(他地区の放送講座委員会のような)を是非、発足させていただきたいと思う。

名古屋地区

テレビの場合、30分番組は動機づけというわりきった立場をとり、最も映像的なはなやかな(?)番組づくりをしている。その良否の結果は別として。

尚、この地区ではシンポジウムを記念して、'93.2/27~3/7まで「大学放送公開講座」が市生涯教育センターで開催された。北大の記念シンポジウムと同様、関係者のみなさまの

ご努力に感謝する次第です。

大阪地区

ラジオ、テレビとも、きめこまかい番組づくりをしていただいた。テレビのスクーリングは過去最高の出席者数であったとのこと。健康志向に沿った時宜を得たテーマであったことも一因と考えられる。

四国地区（徳島）

ラジオは今年度のベストワンの番組である。対話で進める内容が格調高くてわかりやすく、クラシックを都市と音楽という視点で聞かせる手法も見事です。

熊本地区

テレビは地元に着したテーマで、熊本城の歴史、幕末、西南戦争等、豊富な資料や古老へのインタビューなどであきない内容に仕上がっている。反響も大きく、再視聴センターを利用する人々も多かったとのこと。

ラジオは例年通りスタジオに受講生を入れての講義で、受講生からの質問も入り、安定したいい仕上がりになっている。

沖縄地区

テレビは番組としての消化力にいまいちといった感じを受けた。スタジオのアナウンサーの活かし方もうまくいっていない。

ラジオは、ラジオというメディアを考慮してのテーマ選択であったかが問われるところ。持ちまわりだから——という決め方であるとすれば、それは視聴者の支持を失って行く。

言葉が武器となって想像力をかきたてるようなものがラジオのテーマには向いているように思われるのであるが、学術的な内容であるだけにラジオのテーマ選定には配慮をお願いしたい。